

少年の主張玉村町大会の 最優秀賞作品を紹介します

毎年、玉村中学校と南中学校の予選を勝ち抜いた代表が出場し、日ごろの生活を通して感じていることや考えていることを発表する、少年の主張玉村町大会が開催されています。ここでは、今年度玉村町大会で最優秀賞を受賞した作品をご紹介します。

(敬称略)

「感謝あるじや・わねるじや」

玉村中学校三年 小林 杏

「情けは人のためならず」皆さんはこのことわざを知っていますか。「情けは人のためならず」とは、「親切にするのは、その人のためにならない」という意味ではありません。「人に親切にすると巡り巡って自分のためになる」という意味です。私がこのことわざを実感した経験について話したいと思います。

私は昨年、職場体験で、病院での仕事を体験させていただきました。病院では入院患者さんや老人施設に来ている方など、様々な人と触れ合う

機会がありました。病院で働いている方々は、耳の聞こえにくい人には耳元で大きな声ではっきりと話し、歩くのが困難な人にはそっと手を貸して介助をしていました。それぞれの患者さんに合わせた看護をするのは大変なはずなのに、働いている方々は、常に笑顔で明るく仕事をしています。私はその姿を見て、どうして楽しそうに笑顔でいられるのかと疑問を抱きました。その答えは私が実際に働いてみて、気付くことができました。

体験初日は、緊張してぎこちなくなってしまう、思い通りに動くことができませんでした。しかし、だんだん慣れて患者さんに丁寧に接することができるようになってきたと感じました。するとお世話をして仲良くなったおばあさんから、「みんなが来てくれて元気がたよ。ありがとう。」という言葉をおばあさんの笑顔と優しい言葉を受け、心があたたかくなり、それまでの緊張と疲れが吹き飛びました。そして、自然と笑顔が浮かび、幸せな気持ちになれました。このとき私は、人に親切にすることが自分の幸せにつながるということに気付いたのです。きっと働いている方々もこういった気持ちを感じながら患者さんに親切に接しているのかもしれない。

今、思い返せば私はたくさんの方々の助けを受けて成長してきました。その中で一番成長できた実感したものは、部活動での体験です。バレーボール部に入部した私は、まったくの素人で多くの人達に迷惑をかけてしまいました。しかし、そんな私にも、顧問の先生や先輩方が優しく手をさしのべてくれました。今度

は最上級生になった私が、後輩達に優しく接する番でした。バトンを、後輩達に引き継いでいきたいと思っています。

今の時代は、人に情けをかけるどころか、人と接すること自体が減ってきている、そんな世の中になっていると感じます。確かにそのほうが、一見楽で自由なように思うかもしれませんが、しかし、人と接して人に優しくすることが、結局は自分の幸せにつながるのではないのでしょうか。助け、助けられ、高め合う、そんな

世の中になっていけばいいなと思えました。

人に優しくすることで、また別の優しさが生まれます。優しさのネットワークが世の中に広がっていけば、すばらしい未来になるでしょう。みなさんも誰かに優しくしてみたいかがででしょうか。その優しさが、皆さんの未来を、少しでも明るくするかもしれません。私も優しさの気持ちを忘れず、まわりの方々への感謝の気持ちを力に変えて未来へ向かって進んでいきたいと思えます。



発表した生徒の皆さん



最優秀賞の小林 杏さん

